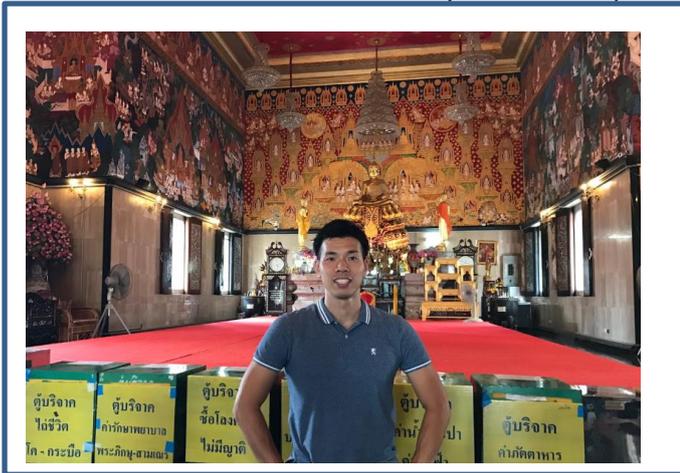


OPU Students 海外留学レポート
Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 中 裕規
所属 (School) 生命環境科学研究科
学年 (Grade) 修士 2 年

留学先 (Name of overseas institution)
シーナカリンウィロート大学
留学期間 (study abroad period)
2018/10/22~2018/11/20
記入日 (Date) 2018/11/23

留学レポート Study Abroad Report

【もっと深くコミュニケーションを取りたかった】

私はタイから帰国してきてからもずっとこの想いが消えません。留学が決まってから私は簡単なタイ語の勉強と英語の勉強を始めました。しかし、上手く話せなくても何とかできるようという気持ちから、大して語学力が上達することなくタイへと出発しました。

私の留学生活は、初日がタイの学生の家で宿泊、2~8日目はタイ学生の家近所のホテルに宿泊、9~11日目が大学ドミトリーに宿泊、残りは学生のアパートに宿泊していました。このように私は、タイでの生活の大半がタイの学生と共に留学生と言うよりも、現地人さながらの生活を送っていました。そのため、バイクタクシーや屋台を利用する際もなかなか言葉が通じず苦労しました。また、このアパートは他にも同じ大学の学生が住んでおり、朝から晩まで一人であることはほとんどありませんでした。この様に常に誰かといてる生活を送っていたこと、またタイは日本と同じで基本的な会話は母国語であるタイ語であることから、初めは学生の会話が理解できず、疎外感を感じていました。たまに話しかけられる英語もタイ人独特の訛り（例えば vegetable はウィケッチャボー、previously はプリベリーなど）から、何を言っているのか全く分かりませんでしたし、私のつたない英語も向こうには伝わらず、最初は本当に意思疎通ができず、ただついて行くだけの生活になっていました。このままでは何も変わらないと思い、実験の待ち時間などにタイの学生に簡単なタイ語を教えてもらい、またタイ英語も分からないときはハッキリと分からないと伝え、理解するように努めました。その甲斐もあり、徐々にコミュニケーションがとれ、また放課後に行われるバドミントンやバレーボールといった活動にも積極的に参加し、1週目には考えられないくらい打ち解けることができました。2週目以降は同じアパートに住む学生達とタイ観光に行ったり、平日の晩ご飯の後にカードゲームをしたり、日本とタイの文化について話をしたりと、たくさんの学生と交流し、充実した時間を過ごすことができました。しかし、表面上の会話がする事はできてもタイ語で話される会話はほとんど分からず、どういう発言で盛り上がっているのかや、一緒にいる学生がどういう気持ちなのかを本当に理解する事ができなかったことが残念ではありません。1ヶ月という短い期間ではありますが、私はタイの学生達とかけがえのない時間を過ごしてきましたし、できるのであれば今すぐにでもこの学生達に日本の観光地に連れて行ってあげたいと思えるほど仲良くなりました。なので、表面的な情報交換だけの会話ではなく、もっと心の通った深いコミュニケーションを取り、彼らをより理解し、これからも途絶えることのない関係性を築いていきたいと考えています。そのためにも、もっと語学力を向上させ、今回の留学で仲良くなったタイ人だけでなくたくさんの国の人々と、日本人と同様の深いコミュニケーションがとれるようにこれからも努力し続けたいと考えています。

私はタイで現地人さながらの生活を行ったことで、積極的に何事も受け入れ、対応することができるようになったと考えています。私がこの留学中に会った男性、ほぼ全てがレディーボーイ（日本で言うオカマ）と呼ばれる方々でした。日本に帰ってきてからこの話を他人にすると、多くの人が少し気持ち悪がったりします。私も留学に行く前までは同様の反応をしていたかもしれません。しかし、実際に会った彼らは、見た目は男でも女性と変わらない心を持ち、そして誰に対してもとても親切でした。触れてはいけない部分だけ注意して、彼らとは日本のスキンケアの話やファッションの話などで大変盛り上がりましたし、彼らと過ごした経験が留学生活の中で最も記憶に残っています。もし、偏見を持ったまま彼らを受け入れていなければ、今回のような貴重な経験はできなかったと思います。

次に、タイでの日常生活も留学当初は日本との違いが多くあり、困惑しました。例えば、紙は設置されておらず、水も流すことができないトイレが当たり前であり、シャワーは水しか出ず、洗濯は洗濯機ではなく手洗いでやる、ごはんは床で食べるなど、日本では考えられない生活が待っていました。それでも、この生活を受け入れそしてそれに馴染んでいくことができました。この留学期間が始まるまで自分でもここまで順応できるとは思っていませんでしたが、拒むのではなくまずは受け入れてみてそこから対応していくことが大切であることを学びました。そして、このような経験をしたからこそ今まで気づくことができなかったことに気づくことができ、また自分を改めてじっくりと見つめ直すことができました。

私はタイ留学を終え、大きく成長することができたと感じています。そして今回学んだことを自分だけで終わらすのではなく、研究室の学生達に伝えて行きたいと思います。

<アドバイス>

留学期間は不安が大きいと思いますが、まずは何でもチャレンジしてみる事が大切だと思います。留学という貴重な経験の中でチャレンジせずに終わってしまうことほど勿体ないことは無いと思うので、何事にも積極的に参加し、自分の視野を広げてみてください。

最後に、この度私の研究留学に対し、多大なご支援を下さった皆様方、またシーナカリンウィロート大学の先生方、学生方に厚く御礼申し上げます。



送別会



アパートの学生達とアユタヤへの観光



12日目以降泊めてもらった学生の部屋



毎日アパートの学生と晩ご飯